

「安全・安心」としては、静脈物流船舶の大型化対応や、被災地支援で災害廃棄物の受入などを検討しました。

これまでの議論を踏まえ、長期構想素案を精査し、令和2年5月頃にパブリックコメント(意見公募)を行い、夏頃には、第3回長期構想検討委員会を開催し、長期構想最終案をとりまとめる予定です。

また、これに基づき、令和2年度内に港湾計画を改訂する予定となっております。



令和2年2月19日開催 第2回長期構想検討委員会

■ 苫小牧港とバンクーバー港が LNG バンカリングの促進に向けた覚書を締結

苫小牧港管理組合

苫小牧港とカナダブリティッシュコロンビア州のバンクーバー港が3月5日にバンクーバー港湾局において「LNG バンカリングの促進に向けた覚書」を締結しました。

アジア側の最東端に位置する苫小牧港は、フェリーや RORO 船等の中長距離定期航路が週 120 便ほど就航する、海上取扱貨物量が国内 4 位である北日本最大の国際拠点港湾です。一方、北米西岸の最西端に位置するカナダ・バンクーバー港は、フェリーや RORO 船、自動車専用船等が就航している、海上取扱貨物量が北米 3 位であるカナダ最大の港湾です。両港間で積極的

に LNG バンカリングに関する情報交換等の連携を行うことで、両港の内航船舶及びアジアと北米を結ぶ太平洋を横断する国際船舶の LNG 燃料の更なる普及促進を図り、IMO(国際海事機関)による排出ガス規制の強化や温室効果ガス(GHG)削減等に貢献を目指すべく、このたび、船舶の LNG 燃料の普及及び LNG バンカリングの促進に関する覚書を締結しました。今後、環境にやさしい港湾拠点形成が進むことを期待するものです。

詳細は苫小牧港管理組合ホームページをご覧ください「<http://www.jptmk.com>」。

